

## 農業者の支援（担い手育成支援等）

アナ： 『市長が語る 2021 三島』 第 15 回の今日は、「農業者の支援」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： テレビなどのメディアでも頻繁に取り上げられていますが、三島市は、農業の盛んな地域、美味しい野菜の産地というイメージがありますね。

市長： はい。

三島市におきましては、平坦地では、稲作やイチゴ・トマトなどの施設園芸が盛んですし、箱根西麓地区の丘陵地では、三島馬鈴薯をはじめとする箱根西麓三島野菜等大変品質の高い野菜が生産されています。

また、JA 三島函南さんと協力して、地元農畜産物のブランド化を進めておりまして、ブランド力の強化が、農業者の皆さんの生産意欲の拡大と、農業所得の向上に寄与していると考えています。

アナ： では、三島市の農業における課題はありますか。

市長： 農業の分野では特に高齢化が進んでいるため、それに伴い担い手の確保と労働力の確保が全国的にも大きな課題となっております。

三島市においても、生産量を維持し、産地を守っていくためにはこれらを喫緊の課題として取り組むことが重要であると考えています。

アナ： 課題の解決に向けて、三島市ではどのような取り組みをされていますか。

市長： はい。

担い手の確保のため、市内で新規就農を希望する方の支援に力を入れています。就農するには、農地の確保、農業用ハウスの建設やトラクター等の農業機械の購入に係る資金の確保、農業技術の習得など様々なハードルがあり、就農してから経営が安定するまでに長期間を要します。

そこで、三島市では、国の「農業次世代人材投資事業」を活用しながら、県、農協と市がタッグを組んで支援を行っておりまして、平成 25 年度から、毎年 1 人程度の新規就農につながっています。

アナ： 「農業次世代人材投資事業」とはどのようなものですか。

市長： はい。

就農を希望する方は、まず指導農家で一定期間、農業研修を受けます。

そして、その経験をもとに、5 年間の農業経営計画を立てまして、それが認定されると、経営が不安定な就農当初の 5 年間、国から毎年最大 150 万円の給付を受けることができます。

また、県・農協・市で、営農に必要な分野のプロによるサポートチームを組み、経営の自立を支援します。

アナ： なるほど。相談できる体制が整っているのは心強いですね。

市長： はい。

農業は、初期投資が大きい一方、自然との闘いの連続であり、農業者になるには強い意志と覚悟が必要です。

将来、「農業次世代人材投資事業」により新規就農した方々が営農の規模を拡大し、三島市を担う農業者に成長されることを楽しみにしています。

アナ： 次に「労働力の確保」の面では、どのような取り組みをしていますか。

市長： はい。

三島市には家族経営の農家が多く、高齢化に伴い、家族以外の手が必要になっている状況があります。

そのため、関係機関で農福連携推進協議会を立ち上げまして、農作業の一部を福祉事業所さんが請け負い、障がいをお持ちの方がその作業を担う仕組みづくりに取り組み、労働力の確保に繋げています。

アナ： 農家の方にとっては人手不足の解消につながりますし、福祉事業所の皆さんにとっては障がいのある方の職域の拡大につながるということで、まさに、一石二鳥ですね。

それから、農作業の効率化に向けて、スマート農業の取り組みも全国的に広がっているとお聞きしました。

市長： はい。

三島市では、JA 三島函南さんが進めるスマート農業推進事業を支援しています。従来、散布機を背負って撒いていた農薬などをドローンを使って散布することで、作業の効率が上がり、所要時間が大幅に短縮されています。

令和2年度のJA 三島函南管内での散布面積は、697アールと前年度の約390アールを大きく上回りました。

また、トマトの農業用ハウスでの温度や湿度等を管理するための環境制御システムの研修事業を行い、その成果として、参加した農家の収穫量が増加するなどの効果も出てきています。

アナ： 美味しくて新鮮な野菜が地元で生産され、すぐに食べることができるこの三島は、食に恵まれた場所だなと感じますし、その背景に皆さんのご努力があることもわかりました。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。